

財政収支(1-2月)

(1) 1-2月の歳入は前年同期比13.7%増、税収は同31.9%増。歳出は前年同期比104.9%増。
 (2) 結果として1-2月の財政収支は2,028.02億リラの赤字(前年同期比303.2%減)、プライマリーバランスは1,472.20億リラの赤字(同193.4%減)。

データ:財務省 単位:億リラ

歳入・歳出内訳	2022年1-2月(A)	2023年1-2月(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	4,465.57	5,079.06	13.7%
税収	3,277.47	4,324.46	31.9%
所得税	442.07	769.89	74.2%
法人税	971.16	138.24	▲85.8%
付加価値税(国内及び輸入)	977.75	1,660.14	69.8%
特別消費税	410.57	874.98	113.1%
その他税収	475.92	881.21	85.2%
税外収入等	11.88	7.55	▲36.5%
歳出(b)	3,467.76	7,107.09	104.9%
人件費	893.65	1,878.73	110.2%
物品及びサービスの購入	166.29	426.54	156.5%
経常移転	1,382.19	3,400.64	146.0%
資本支出	75.25	278.16	269.6%
支払利子(c)	579.01	555.83	▲4.0%
その他歳出	371.37	567.19	52.7%
財政収支(a-b)	997.81	▲2,028.02	▲303.2%
基礎的財政収支(a-(b-c))	1,576.82	▲1,472.20	▲193.4%

経常収支(2023年1月)

(1) 2023年1月の経常収支は、98.49億ドルの赤字(前年同期は68.89億ドルの赤字)。
 (2) 2023年1月の貿易収支(物品)は124.31億ドルの赤字で前年同期から赤字幅拡大、旅行収支は24.54億ドルの黒字で前年同期から黒字幅拡大。

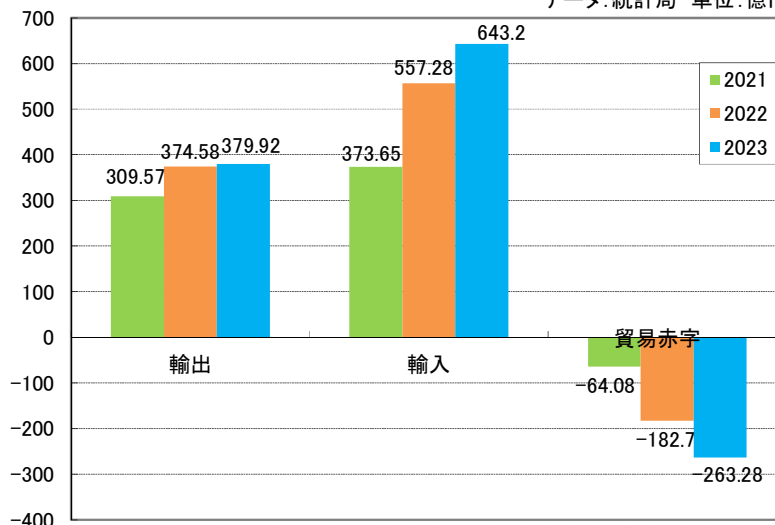
データ:中央銀行 単位:億ドル

内訳	2022年1月(A)	2023年1月(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲68.89	▲98.49	▲43.0%
貿易収支(物品)	▲85.47	▲124.31	▲45.4%
サービス収支	21.05	31.64	50.3%
旅行収支	18.21	24.54	34.8%
第1次所得収支	▲2.90	▲3.81	▲31.4%
第2次所得収支	▲1.57	▲2.01	▲28.0%
労働者送金	0.36	0.11	▲69.4%
資本移転等収支	0.00	▲0.15	-
金融収支	▲42.03	▲99.83	▲137.5%
直接投資	▲4.42	▲2.23	49.5%
証券投資	9.65	▲4.90	▲150.8%
その他投資	▲37.84	0.71	101.9%
外貨準備	▲9.42	▲93.41	▲891.6%
誤差脱漏	26.86	▲1.19	▲104.4%

貿易収支(1-2月)

(1) 1-2月の輸出額は379.92億ドル(前年同期比1.43%増)、輸入額は643.2億ドル(同15.42%増)となり、この結果、貿易収支は263.28億ドルの赤字(同44.11%赤字幅拡大)となった。
 (2) 1-2月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は42.7%(前年同期は41.9%)、輸入額におけるEUからの輸入の占める割合は24.3%(前年同期は24.9%)となっている。

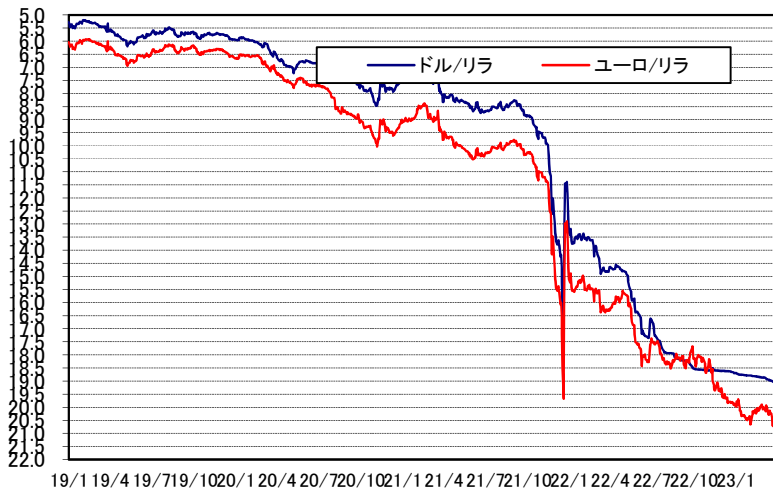
データ:統計局 単位:億ドル



為替(3月)

経常収支の悪化の要因から対ドル史上最安値を更新。月末は1ドル＝19.15リラ(前月末比1.5%安)、1ユーロ＝20.84リラ(同4.2%安)となった。

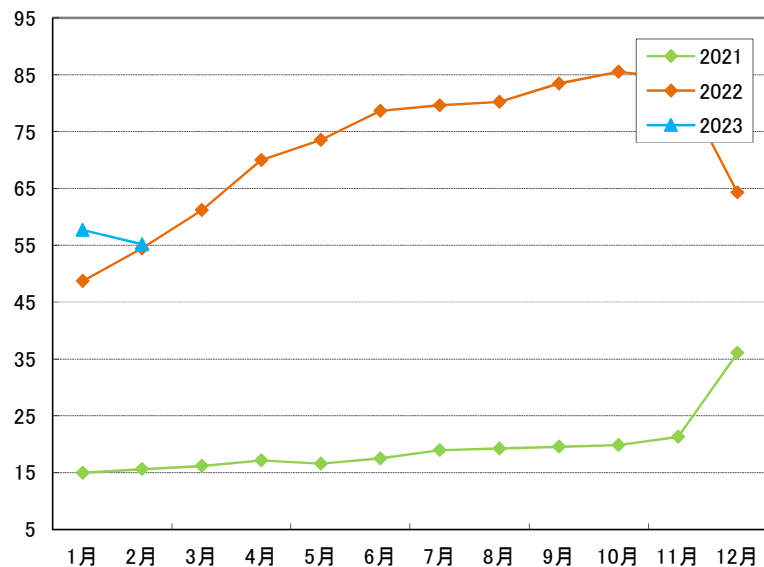
データ:中央銀行 単位:リラ



消費者物価上昇率(2月)

- (1)2月の消費者物価は前年同月比55.18%増、前月比3.15%増。
- (2)項目別にみると、前年同月比74.34%でホテル・飲食店が、前月比7.36%で食品及び非アルコール飲料が最も上昇した。
- (3)2023年末のインフレ率の中銀目標(1/26時点)は前年同月比22.3%。
- (4)国内生産者物価指数は前年同月比76.61%増、前月比1.56%増となった。

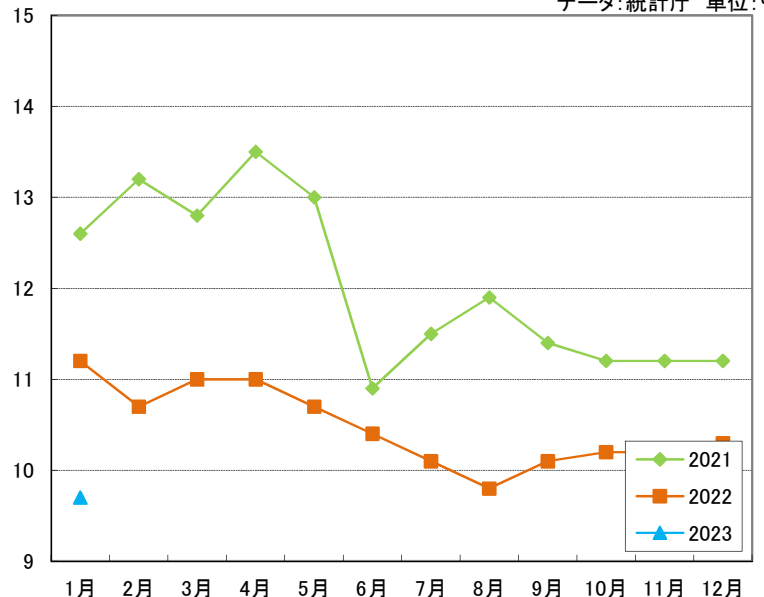
データ:統計庁 単位:前年同月比(%)



失業率(1月)

- (1)1月の失業率(季節調整後)は9.7%となり、前月から0.5ポイント減少した。
- (2)労働力人口は3,526.0万人、就労者数は3,183.7万人、失業者数は342.4万人。
- (3)男性の失業率は7.7%、女性は13.7%。若年層(15-24歳)の失業率は20.2%となっている。

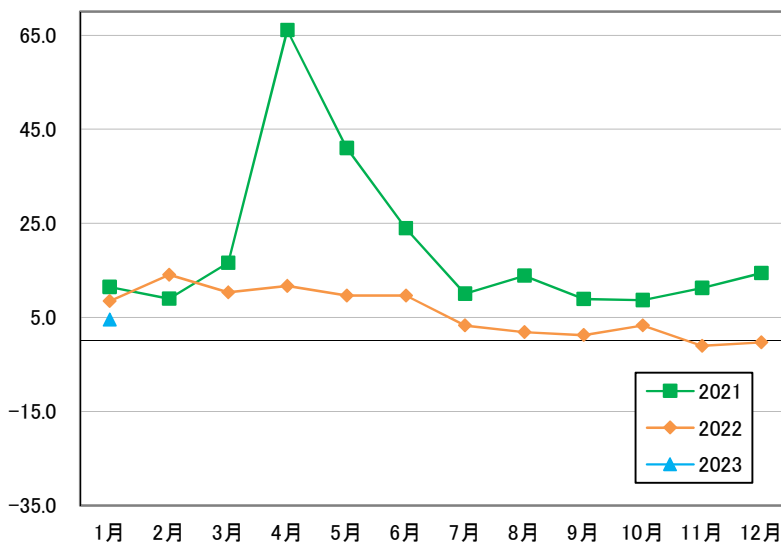
データ:統計庁 単位:%



鉱工業生産(1月)

(1)1月の鉱工業生産指数は、前年同月比(日数調整後)4.5%増。
(2)分野別では、耐久消費財が前年同月比6.6%増、資本財が同18.9%増、中間財が増減なしとなった。

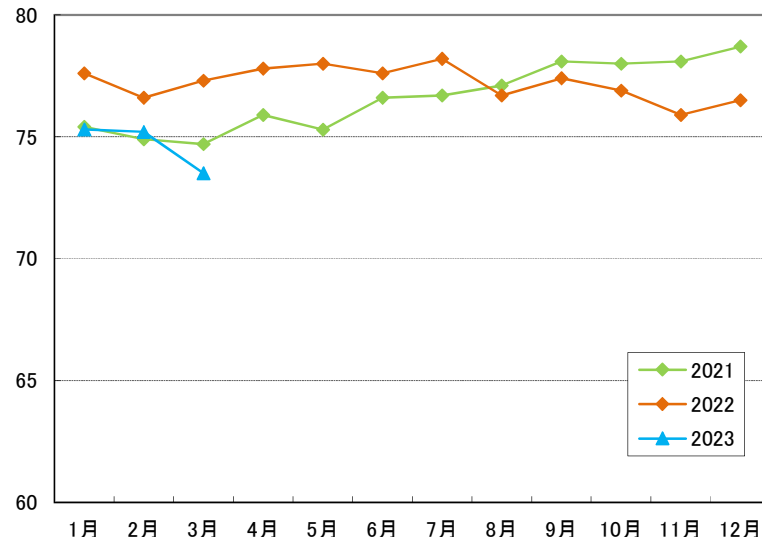
データ:中央銀行 単位:前年同月比(%)



設備稼働率(3月)

(1)3月の設備稼働率は73.5%となり、前年同月から3.8ポイント減少し、前月から1.7ポイント減少。
(2)製造業の分野別では、コンピュータ、電子製品、光学製品製造業(82.6%)が最も稼働率が高く、織物製造業(66.1%)が最も低い稼働率であった。

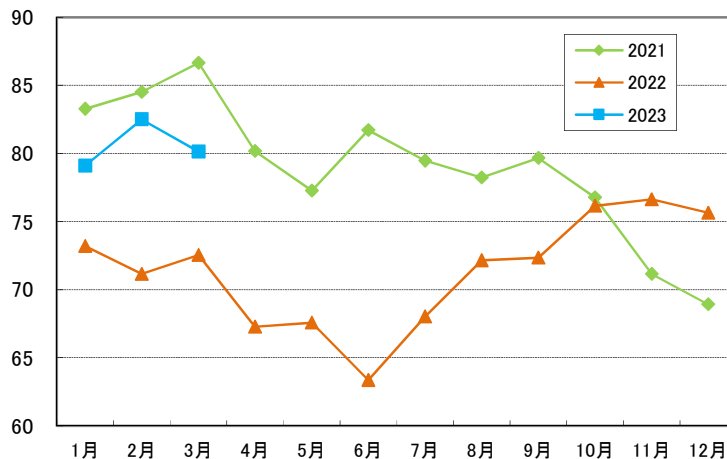
データ:中央銀行 単位:%



消費者信頼感指数(3月)

(1)3月の消費者信頼感指数(季節調整値)は80.1ポイントで、前月から2.4ポイント減少。
(2)内訳では、「現在の家計の財政状況」は前月から上昇し、「今後12か月間の家計の財政状況見通し」及び「今後12か月間の一般経済状況見通し」、「今後12か月間の耐久消費財への支出見通し」は前月から減少した。

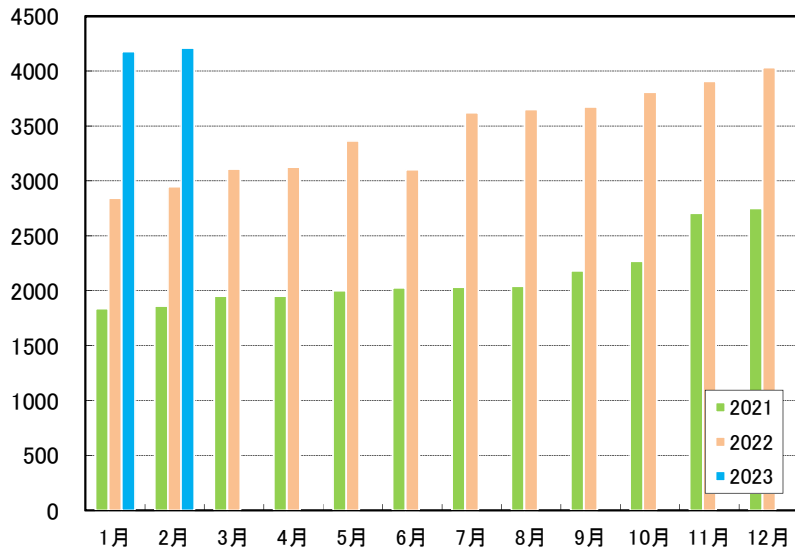
データ:統計庁 単位:ポイント



中央政府債務残高(2月)

(1)2月末時点での中央政府債務残高は4兆2,111億リラとなり、前年同月比42.8%増、前月比0.8%増となった。
 (2)また、国内債務比率は48.0%、自国通貨債務比率は35.7%(2022年末は34.5%)となっている。
 (3)なお、債務残高のうち円は0.9%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。

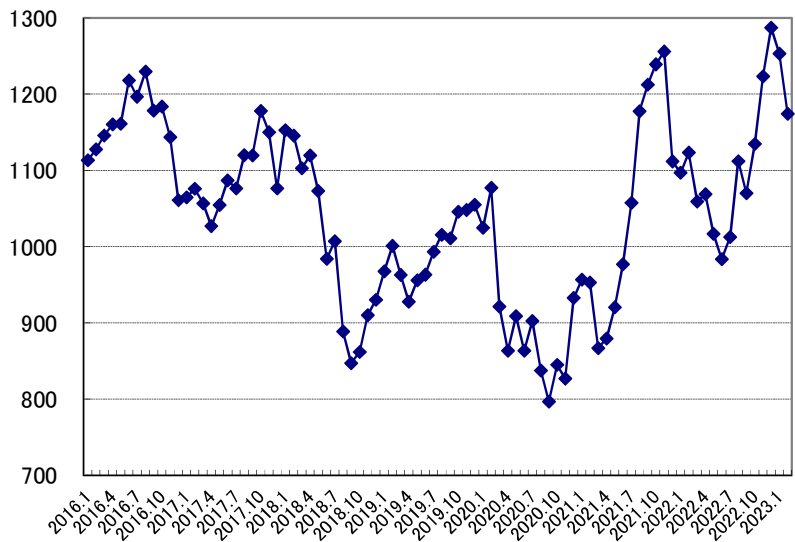
データ:財務省 単位:10億リラ



外貨準備高(2月)

(1)2月末時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,174.06億ドルとなった。
 (2)前月から79.34億ドル減少した。

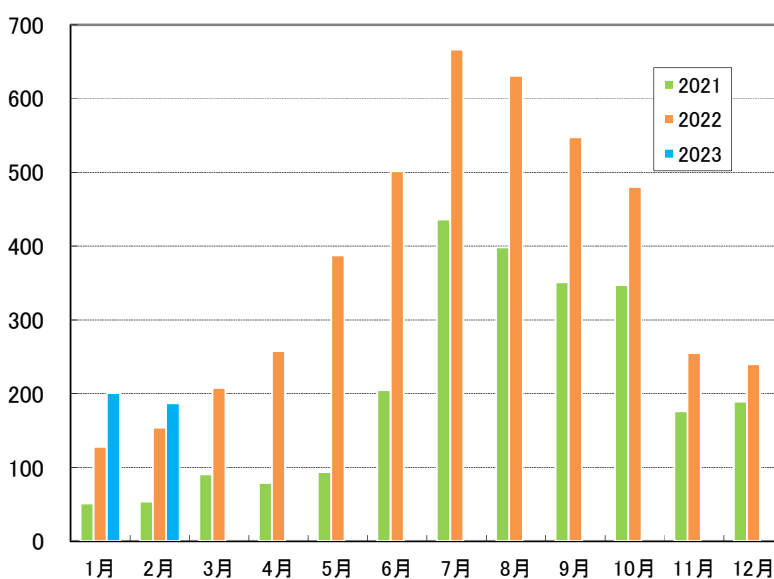
データ:中銀 単位:億ドル



外国人訪問者数(2月)

(1)2月の外国人訪問者数は1,870,414人で、前年同月比21.35%増。日本は4,494人であった(前年同月は794人)。
 (2)国別ではロシアが最も多く、227,695人で全体の12.17%を占め、以下、ブルガリア(150,873人)、ドイツ(148,169人)となっている。

データ:文化観光省 単位:万人

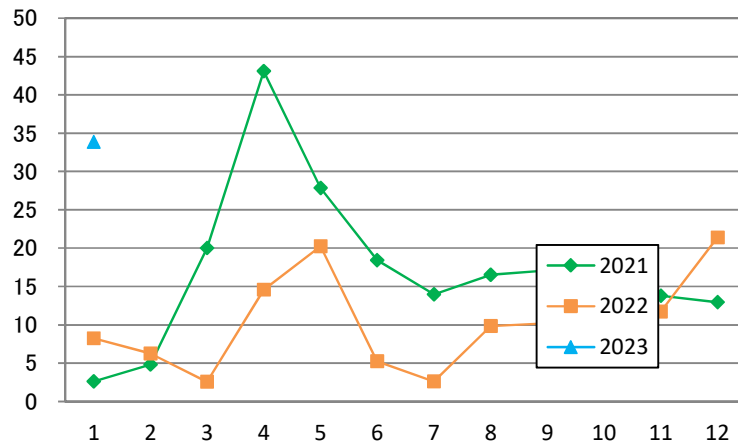


小売売上高(1月)

データ:統計庁 単位:前年同月比(%)

(1)1月の小売売上高は前年同月比(日数調整後)33.9%増、前月比(季節及び日数調整後)5.4%増。

(2)内訳は食品・飲料・タバコが前年同月比24.4%増、繊維・衣料が同31.1%増、コンピュータ・書籍・通信機器が同66.1%増となった。

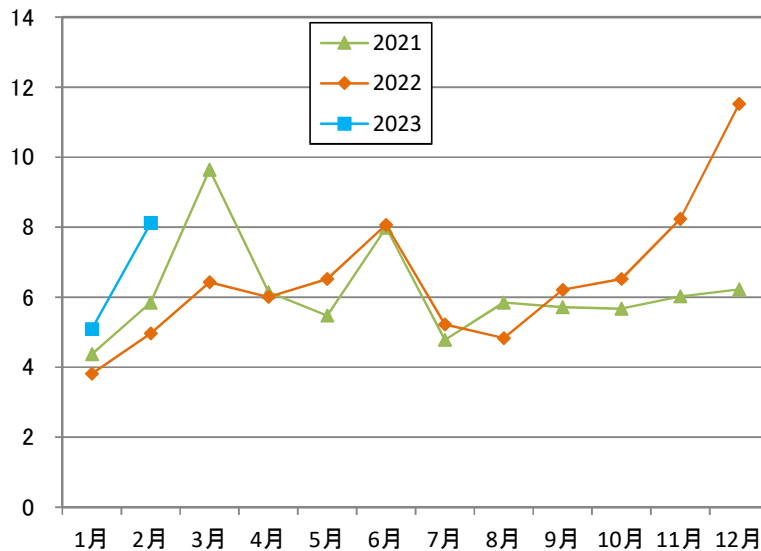


新車販売台数(2月)

データ:自動車販売協会 単位:万台

(1)2月の新車販売台数は81,148台で前年同月比63.43%増。

(2)2月の内訳は乗用車が58,907台(前年同月比56.5%増)、小型商用車が22,241台(同85.2%増)となった。



住宅販売戸数(2月)

データ:統計庁 単位:万戸

(1)2月の住宅販売戸数は80,031戸で前年同月比17.99%減となった。

(2)2月は新築が23,476戸(前年同月比18.8%減)、中古が56,555戸(同17.7%減)。

(3)1月の住宅ローンでの購入は17,357戸(前年同月比12.7%減)、その他が62,674戸(同19.3%減)。

